

大阪府内学校給食における食器具の現状と課題 : 大阪府内学校給食の食器具調査を中心として

著者	榎原 正澄, 赤井 洋子, 石川 友美, 伊藤 佳代子, 佐保 庚生, 森 正子
雑誌名	関西大学経済論集
巻	69
号	1
ページ	25-65
発行年	2019-06-20
その他のタイトル	Current Situation and Issues of Food Equipment in School Lunch in Osaka Prefecture: Focusing on the Survey of Food Equipment for School Lunch in Osaka Prefecture
URL	http://hdl.handle.net/10112/00017066

論 文

大阪府内学校給食における食器具の現状と課題

—大阪府内学校給食の食器具調査を中心として—

檜 原 正 澄
赤 井 洋 子
石 川 友 美
伊 藤 佳代子
佐 保 庚 生
森 正 子

要 約

学校給食において、食の内容と同時にどのような食器具を使用するのかということは、大切なことであると考えられる。しかしながら、「食育基本法」等においては具体的に規定されていない。

そこで、本論文では、大阪府内における食器具の使用実態を調査し、それに基づいて、学校給食における食器具の現状と課題を考察した。

上記の分析を踏まえ、学校給食における食器具問題を総括すれば、次の4点が指摘できる。

第1には、食器具に係る全国的統計の不備であり、早急な改善が望まれる。

第2には、適切な食器具使用に係る法制度の整備の必要性である。

第3には、食器具と学校給食調理場方式との関係性について、今後、より踏み込んだ検証が求められる。

第4には、食器具の材質選択における教育的意義の重要性である。

キーワード：学校給食、食器具、食育、子どもの成長、環境問題
経済学文献季報分類番号：08-21（農業経済学）

目 次

はじめに

第1章 学校給食における食器具の変遷

第2章 大阪府内学校給食における食器具の現状と問題点

—「2018年度 大阪府内学校給食食器具調査」を中心として—

第3章 大阪府内学校給食における献立と食器具数

第4章 大阪府内学校給食における食器具をめぐる課題

むすびに

はじめに

学校給食において、食の内容と同時にどのような食器具を使用するのかということは、「食に関する基礎の習得¹⁾」にとって大切なことであると考えられる。しかしながら、「食育基本法」(2005年法理第63号)においては具体的に規定されていない²⁾。

そこで、本論文では、大阪府内における食器具の使用実態を調査し、それに基づいて、学校給食における食器具の現状と課題を考察した。

本論文の構成は、以下のとおりとなっている

第1章「学校給食における食器具の変遷」においては、学校給食における食器具に係る問題を振り返り、その上で文部科学省「学校給食における食堂・食器具使用状況調査」を利用して、その変化について検討した。

第2章「大阪府内学校給食における食器具の現状と問題点」においては、2018年に筆者達の実施した「2018年度 大阪府内学校給食食器具調査」に関して紹介した。ここでは、大阪府内の公立学校における食器具の使用実態を明らかにし、その問題点を考察した。

第3章「大阪府内学校給食における献立と食器具数」においては、第2章で考察した大阪府内の食器具の使用実態を踏まえて、献立と食器具数との関係性について考察を加えた。

第4章「大阪府学校給食における食器具をめぐる課題」においては、上記の検討を踏まえ、大阪府内学校給食における食器具をめぐる今後の課題について考察した。

「むすびに」においては、学校給食における食器具問題の総括をした。

ところで、本論文は、「学校給食・食文化研究会³⁾」の研究成果の一部である。

1) 食育推進有識者懇談会（第3回）決定「食育推進国民運動の重点事項」（2007年6月9日）によれば、理念「豊かな人間形成（知育 徳育 体育の基礎）」として、分野「食に関する基礎の習得」があり、その一つとして「食に関する基本所作」のなかに、正しいマナー・作法による食卓、食事マナー（姿勢、順序等）とならんで、「配膳、箸等」の記載がある。

2) 「第3次食育推進基本計画」（2016年3月18日決定）においても、食器具に関する具代的な目標は示されていない。

3) 「学校給食・食文化研究会」（E-mail：kashi@kansai-u.ac.jp）は、2014年5月27日に組織された。研究会の研究目的は、豊かな学校給食を実現し、学校給食の重要性、食の大切さ・食文化を研究することにある。会員は、大学教授、元・栄養教諭、元・学校給食調理員、元・行政職員等であり、研究会を毎月1回開催しており、事務局は、関西大学経済学部榎原正澄研究室に所在する。

これまでの研究成果は、次のとおりであり、本稿と合わせて参考にして頂きたい。

榎原正澄他「大阪府内における学校給食の現状と課題」（関西大学『経済論集』第66巻第1号、2016年6月号、<http://hdl.handle.net/10112/11419>）。

榎原正澄他「学校給食における地産地消の現状と課題」（関西大学『経済論集』第67巻第4号、2018年3月号）。

第1章 学校給食における食器具の変遷

学校給食における食器具の変遷に関して、まずは1990年代まで要約しておこう⁴⁾。

1950年代の学校給食における食器具に係って、1954年に「学校給食法」が制定され、学校給食は全国的に普及することとなった。当時の献立としては、コッペパン、脱脂粉乳、ジャム、鯨肉のたつた揚、せんキャベツであり、食器具の材質はアルマイトであり、1枚の皿が二つに区切られ、スープ碗と中皿3点で、「先割れスプーン⁵⁾」が登場した。

1960年代には、脱脂粉乳反対のための全国闘争が展開され、1960年代後半には生乳への切り替えが進んだ。献立の多様化（「ソフトめんのカレーソース、牛乳、サラダ、黄桃ゼリー、チーズ」等）は進み、彩もカラフルとなった。しかしながら、食器具はポリプロピレン製が増加し、先割れスプーン、フォークが使用されている。

1970年代には、日本の経済成長に伴って、加工食品の開発・普及が進み、学校給食の献立においても「ブドウパン、ハンバーグ、キャベツ、牛乳、粉ふきイモ」等、あまり手間のかからない給食も登場した。食器具はメラミンのランチ皿が普及し、先割れスプーンは使用されている。1976年からは、米飯給食が導入された。

1980年代には、食器具としてはアルマイトとポリプロピレン、メラミンが大半であり、学校給食の合理化推進の動きが活発となった。食器具の材質に関しては、アルマイトの味気なさが問題となり、また、ポリプロピレン、メラミンからのホルムアルデヒドの溶出问题があり、食器具問題に焦点が当てられた時期である。

1990年代には、病原性大腸菌 O-157が、大阪府堺市、岡山県邑久町で発生し、WTO 協定締結に伴う輸入食品の増加があり、食の安全性が大きく問われる。食器具では、ポリプロピレン、メラミン、強化耐熱ガラスの難点解消として、ポリカーボネートが登場し、急速な普及をみる時期である。しかし、ポリカーボネートからはビスフェノール A の溶出问题があり、文部省は使用しないように指示をした。

続いて、1991年から2006年までの食器具使用の実態に関して、文部科学省の調査⁶⁾を利用して述べることにしたい。

4) 資料的には少し古いですが1990年代までの学校給食の食器具に係る変遷については、兩宮正子「給食食器のこれまでとこれからのあり方」(家庭栄養研究会編集『食べもの通信』No.362、2001年4月)が簡潔に述べられているので、参考に記述した。また、献立に関しては、公益法人千葉県学校給食会「給食の歴史」を参考にした。

5) 「先割れスプーン」問題については、藤原辰史『給食の歴史』(岩波新書、2018年)197～202ページに、「先割れスプーン論争」と題して記述されている。

6) 文部科学省「学校給食における食堂・食器具使用状況調査」を使用した。本調査は3年毎の調査であり、2006年度が現時点での最後の調査となっているため、統計的にはそれ以降の分析はできていない。

学校給食における食器具使用状況の推移についてみてみよう（表1-1参照）。

「はし使用校」は、1991年時点で94.6%（小学校96.3%、中学校89.4%）であり、1976年からの米飯給食の導入以降の米飯給食の普及の結果と考えられる。2006年には99.1%（小学校99.3%、中学校98.6%）となっており、全国的には「はし使用校」がほとんどとなっている。

「はし以外の食器具使用状況」では、2006年段階では、スプーン69.0%、フォーク33.6%、先割れスプーン27.8%、ナイフ1.7%となっている。1991年度と比較すれば、スプーンの使用割合は増加しており、先割れスプーンの使用割合の減少と対応していると考えられる。フォークの使用割合の増加に関しても、同様のことが考えられる。「先割れスプーンのみ使用校」は、1991年時点で4.0%（小学校2.9%、中学校7.5%）と少数校での使用となっており、2003年には1.3%（小学校1.3%、中学校1.5%）と激減しており、2006年度からは調査結果は記載されていない。

2003年度の学校給食における食器の点数別使用状況についてみてみよう（表1-2参照）。

全体的にみれば、3点が42.5%（小学校31.9%、中学校10.6%）でもっとも多く、続いて、4点17.1%（小学校13.1%、中学校4.0%）、2点15.5%（小学校11.6%、中学校3.9%）、5点11.1%（小学校8.2%、中学校3.0%）、1点5.6%（小学校3.4%、中学校2.2%）、6点4.3%（小学校3.0%、中学校1.3%）となっている。7点、8点以上の学校もみられ、多数の食器を使用する学校給食もあることを示している。

2006年度の学校給食における食器の点数別使用状況についてみてみよう（表1-3参照）。

全体的にみれば、3点が57.6%（小学校43.5%、中学校14.1%）でもっとも多く、続いて、2点17.6%（小学校12.8%、中学校4.8%）、4点10.5%（小学校7.4%、中学校3.1%）、5点以上9.1%（小学校5.9%、中学校3.2%）、1点4.9%（小学校3.2%、中学校1.7%）、0点0.4%（小学校0.2%、中学校0.1%）となっている。2003年度と比較すれば、3点使用の学校数が多くなっている。

学校給食における食器具の材質別使用状況の推移についてみてみよう（表1-4参照）。

2006年度における食器具の材質別使用としては、ポリプロピレンが32.8%（小学校31.9%、中学校35.5%）でもっとも多く、続いて、陶磁器32.6%（小学校33.1%、中学校31.1%）、ポリエチレンナフタレート16.8%（小学校16.9%、中学校16.5%）、メラミン11.8%（小学校11.7%、中学校12.0%）、アルマイト10.2%（小学校11.8%、中学校5.6%）、ステンレス7.3%（小学校7.3%、中学校7.5%）、ポリカーボネート6.7%（小学校7.1%、中学校5.5%）、ABS樹脂3.5%（小学校3.3%、中学校4.0%）、強化耐熱ガラス2.5%（小学校2.3%、中学校2.8%）、木0.5%（小学校0.5%、中学校0.5%）、ガラス0.1%（小学校0.1%、中学校0.1%）その他2.9%（小学校2.8%、中学校3.2%）となっている。

表1-1 学校給食における食器具使用状況の推移（公立学校）

区分	給食実施校数	はし使用校			フォーク			ナイフ			先割れスプーン			その他			先割れスプーンのみ使用校		
		学校数	割合	割合	学校数	割合	割合	学校数	割合	割合	学校数	割合	割合	学校数	割合	割合	学校数	割合	割合
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
小学校	1991年	23,563	96.3	34.0	5,994	25.4	590	2.5	14,678	62.3	37	0.2	684	2.9					
	1994年	23,497	97.7	10,132	43.1	6,416	27.3	648	2.8	13,244	56.4	42	0.2	445	1.9				
	1997年	23,339	98.1	12,002	51.4	6,790	29.1	593	2.5	10,572	45.3	50	0.2	377	1.6				
	2000年	23,110	98.2	13,460	58.2	7,118	30.8	555	2.4	8,775	38.0	70	0.3	272	1.2				
	2003年	22,603	98.6	14,375	63.6	7,286	32.2	423	1.9	7,467	33.0	188	0.8	284	1.3				
	2006年	21,979	99.3	15,302	69.6	7,179	32.7	325	1.5	6,077	27.6	141	0.6	-	-				
中学校	1991年	7,738	89.4	2,207	28.9	341	4.5	4,824	63.1	20	0.3	571	7.5						
	1994年	7,738	93.1	3,201	41.4	2,428	31.4	390	5.0	4,449	57.5	23	0.3	315	4.1				
	1997年	7,895	94.5	3,748	47.5	2,588	32.8	356	4.5	3,526	44.7	24	0.3	288	3.6				
	2000年	7,980	93.5	4,228	53.0	2,666	33.4	431	5.4	3,053	38.3	98	1.2	187	2.3				
	2003年	8,106	95.8	4,760	58.7	2,904	35.8	253	3.1	2,767	34.1	151	1.9	125	1.5				
	2006年	8,154	98.6	5,498	67.4	2,951	36.2	191	2.3	2,297	28.2	94	1.2	-	-				
合計	1991年	31,202	94.6	10,452	33.5	8,201	26.3	931	3.0	19,502	62.5	57	0.2	1,255	4.0				
	1994年	31,235	96.5	13,333	42.7	8,844	28.3	1,038	3.3	17,693	56.6	65	0.2	760	2.4				
	1997年	31,234	97.2	15,750	50.4	9,378	30.0	949	3.0	14,098	45.1	74	0.2	665	2.1				
	2000年	31,090	97.0	17,688	56.9	9,784	31.5	986	3.2	11,828	38.0	168	0.5	459	1.5				
	2003年	30,709	97.9	19,135	62.3	10,190	33.2	676	2.2	10,234	33.3	339	1.1	409	1.3				
	2006年	30,133	99.1	20,800	69.0	10,130	33.6	516	1.7	8,374	27.8	235	0.8	-	-				

資料：文部科学省「学校給食における食器・食器具使用状況調査」

注：1) 調査対象は、完全給食又は補給給食を実施する公立の小・中学校及び中学校である。2) 2000年度以降の中学校には、中等教育学校前期課程を含む。3) 調査時期は、各年5月1日現在である。4) 複数回答である。5) 「スプーン」には、先割れスプーンは含まない。

表1-2 学校給食における食器の点数別使用状況（2003年度、公立学校）

区分	0点		1点		2点		3点		4点		5点		6点		7点		8点以上		計		
	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
盆使用、パレット皿不使用の学校	小学校	34	0.1	157	0.5	1,743	5.7	7,062	23.0	2,993	9.7	1,838	6.0	755	2.5	317	1.0	233	0.8	15,132	49.3
	中学校	12	0.0	72	0.2	531	1.7	2,317	7.5	939	3.1	689	2.2	328	1.1	157	0.5	198	0.6	5,243	17.1
盆及びパレット皿使用の学校	小学校	46	0.1	229	0.7	2,274	7.4	9,379	30.5	3,932	12.8	2,527	8.2	1,083	3.5	474	1.5	431	1.4	20,375	66.3
	中学校	12	0.0	508	1.7	2,777	9.9	14,949	55.2	23	0.1	15	0.0	3	0.0	2	0.0	3	0.0	2,172	7.1
盆不使用、パレット皿使用の学校	小学校	40	0.1	1,187	3.9	1,330	4.3	408	1.3	107	0.3	69	0.2	14	0.0	5	0.0	1	0.0	3,161	10.3
	中学校	15	0.0	208	0.7	391	1.3	390	1.3	201	0.7	175	0.6	62	0.2	25	0.1	10	0.0	1,477	4.8
盆及びパレット皿不使用の学校	小学校	7	0.0	84	0.3	139	0.5	148	0.5	85	0.3	59	0.2	29	0.1	10	0.0	7	0.0	568	1.8
	中学校	22	0.1	292	1.0	530	1.7	538	1.8	286	0.9	234	0.8	91	0.3	35	0.1	17	0.1	2,045	6.7
盆及びパレット皿使用の学校	小学校	50	0.2	0	0.0	380	1.2	2,080	6.8	741	2.4	443	1.4	84	0.3	37	0.1	7	0.0	3,822	12.4
	中学校	37	0.1	0	0.0	236	0.8	639	2.1	187	0.6	147	0.5	38	0.1	19	0.1	3	0.0	1,306	4.3
合計	小学校	87	0.3	0	0.0	616	2.0	2,719	8.9	928	3.0	590	1.9	122	0.4	56	0.2	10	0.0	5,128	16.7
	中学校	127	0.4	1,044	3.4	3,567	11.6	9,791	31.9	4,019	13.1	2,510	8.2	912	3.0	382	1.2	251	0.8	22,603	73.6
合計	小学校	68	0.2	664	2.2	1,183	3.9	3,253	10.6	1,234	4.0	910	3.0	398	1.3	188	0.6	208	0.7	8,106	26.4
小計	195	0.6	1,708	5.6	4,750	15.5	13,044	42.5	5,253	17.1	3,420	11.1	1,310	4.3	570	1.9	459	1.5	30,709	100.0	

資料：文部科学省「学校給食における食器・食器具使用状況調査」

注：1) 調査対象は、完全給食又は補給給食を実施する公立の小・中学校及び中学校（中等教育学校前期課程を含む）である。2) 調査時期は、2003年5月1日現在である。3) 食器の点数には、盆、パレット皿とも含まない。4) パレット皿とは、盆に凸凹をつけて、直接料理を盛りつけるようにしたものをいう。5) 割合欄は、完全給食及び補給給食実施校数に対する比率（単位：%）である。

(単位:校,%)

表1-3 学校給食における食器の点数別使用状況(2006年度、公立学校)

区分	0点		1点		2点		3点		4点		5点以上		計		
	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	
盆使用、パレット皿 不使用の学校	小学校	24	0.1	109	0.4	1,818	6.0	10,311	34.2	1,823	6.0	1,215	4.0	15,300	50.8
	中学校	9	0.0	39	0.1	572	1.9	3,284	10.9	748	2.5	731	2.4	5,383	17.9
	小計	33	0.1	148	0.5	2,390	7.9	13,595	45.1	2,571	8.5	1,946	6.5	20,683	68.6
盆及びパレット皿 使用の学校	小学校	0	0.0	171	0.6	461	1.5	364	1.2	105	0.3	103	0.3	1,204	4.0
	中学校	0	0.0	47	0.2	199	0.7	152	0.5	56	0.2	51	0.2	505	1.7
	小計	0	0.0	218	0.7	660	2.2	516	1.7	161	0.5	154	0.5	1,709	5.7
盆不使用、パレット皿 使用の学校	小学校	22	0.1	665	2.2	971	3.2	182	0.6	28	0.1	63	0.2	1,931	6.4
	中学校	18	0.1	419	1.4	363	1.2	84	0.3	13	0.0	33	0.1	930	3.1
	小計	40	0.1	1,084	3.6	1,334	4.4	266	0.9	41	0.1	96	0.3	2,861	9.5
盆及びパレット皿 不使用の学校	小学校	24	0.1	12	0.0	615	2.0	2,236	7.4	274	0.9	383	1.3	3,544	11.8
	中学校	17	0.1	3	0.0	314	1.0	737	2.4	109	0.4	156	0.5	1,336	4.4
	小計	41	0.1	15	0.0	929	3.1	2,973	9.9	383	1.3	539	1.8	4,880	16.2
合計	小学校	70	0.2	957	3.2	3,865	12.8	13,093	43.5	2,230	7.4	1,764	5.9	21,979	72.9
	中学校	44	0.1	508	1.7	1,448	4.8	4,257	14.1	926	3.1	971	3.2	8,154	27.1
	小計	114	0.4	1,465	4.9	5,313	17.6	17,350	57.6	3,156	10.5	2,735	9.1	30,133	100.0

資料:文部科学省「学校給食における食器・食器具使用状況調査」

注:1)調査対象は、完全給食又は補食給食を実施する公立の小学校及び中学校(中等教育学校前期課程を含む)である。2)調査時期は、2006年5月1日現在である。

3)食器の点数は、盆、パレット皿とは、盆に凸凹をつけ、直接料理を盛りつけるようにしたものという。

4)パレット皿とは、盆に凸凹をつけ、直接料理を盛りつけるようにしたものという。

5)割合欄は、完全給食及び補食給食実施校数に対する比率(単位:%)である。

表1-4 学校給食における食器の材質別使用状況の推移(公立学校)

(単位:校,%)

区分	給食実施校数	ポリプロピレン		ポリエチレン ナフタレート		メラミン		ポリカーボネート		ABS樹脂		陶磁器		アルミ缶		ステンレス		強化耐熱ガラス		ガラス		木		その他	
		学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合
小学校	1991年	23,563	9,928	42.1			3,965	16.8				1,341	5.7	10,897	46.2	3,205	13.6	1,095	4.6	363	1.5	72	0.3	654	2.8
	1994年	23,497	9,388	40.0			4,109	17.5	3,851	16.4		2,436	10.4	8,308	35.4	2,515	10.7	1,461	6.2	34	0.1	93	0.4	195	0.8
	1997年	23,339	7,632	32.7			3,872	16.6	7,767	33.3		3,206	13.7	6,000	25.7	2,000	8.6	1,233	5.4	20	0.1	80	0.3	355	1.5
	2000年	23,110	8,347	36.1			3,632	15.7	5,460	23.6		5,176	22.4	4,665	20.2	2,120	9.2	1,461	6.3	69	0.3	116	0.5	362	1.6
	2003年	22,603	7,871	34.8			3,093	13.7	2,342	10.4		6,865	30.4	3,427	15.2	1,897	8.4	814	3.6	17	0.1	115	0.5	362	1.6
	2006年	21,979	7,004	31.9	3,709	16.9	2,381	11.7	1,559	7.1	729	3.3	7,281	33.1	2,604	11.8	1,602	7.3	516	2.3	13	0.1	113	0.5	626
中学校	1991年	7,639	3,871	50.7			1,483	19.4				387	5.1	2,624	34.4	1,158	15.2	368	4.8	17	0.2	19	0.2	148	1.9
	1994年	7,738	3,564	46.1			1,527	19.7	1,389	18.0		685	8.9	1,799	23.2	947	12.2	443	5.7	15	0.2	26	0.3	67	0.9
	1997年	7,895	3,042	38.5			1,517	19.2	2,698	34.2		906	11.5	1,126	14.3	797	10.1	410	5.2	5	0.1	26	0.3	210	2.7
	2000年	7,980	3,387	42.4			1,480	18.5	1,848	23.2		1,700	21.3	1,039	805	10.1	515	6.5	24	0.3	30	0.4	256	3.2	
	2003年	8,106	3,197	39.4			1,218	15.0	787	9.7		2,366	29.2	610	7.5	712	8.8	357	4.4	8	0.1	50	0.6	256	3.2
	2006年	8,154	2,893	35.5	1,344	16.5	976	12.0	452	5.5	328	4.0	2,536	31.1	458	5.6	608	7.5	231	2.8	5	0.1	37	0.5	262
合計	1991年	31,202	13,799	44.2			5,448	17.5				1,728	5.5	13,523	43.3	4,363	14.0	1,463	4.7	380	1.2	91	0.3	802	2.6
	1994年	31,235	12,952	41.5			5,636	18.0	5,240	16.8		3,121	10.0	10,107	32.4	3,462	11.1	1,904	6.1	49	0.2	119	0.4	262	0.8
	1997年	31,234	10,674	34.2			5,389	17.3	10,465	33.5		4,112	13.2	7,126	22.8	2,797	9.0	1,663	5.3	25	0.1	106	0.3	565	1.8
	2000年	31,090	11,734	37.7			5,112	16.4	7,308	23.5		6,876	22.1	5,538	17.8	2,925	9.4	1,976	6.4	93	0.3	146	0.5	618	2.0
	2003年	30,709	11,068	36.0			4,311	14.0	3,129	10.2		9,231	30.1	4,037	13.1	2,609	8.5	1,171	3.8	25	0.1	165	0.5	618	2.0
	2006年	30,133	9,897	32.8	5,053	16.8	3,557	11.8	2,011	6.7	1,057	3.5	9,817	32.6	3,062	10.2	2,210	7.3	747	2.5	18	0.1	150	0.5	888

資料:文部科学省「学校給食における食器・食器具使用状況調査」

注:1)調査対象は、完全給食又は補食給食を実施する公立の小学校及び中学校である。2)2006年度以降の中学校には、中等教育学校前期課程を含む。

4)複数回答である。5)陶磁器には、強化陶磁器を含む。

7)2006年度調査より、材質にポリエチレンナフタレート、ABS樹脂の区分を新たに設けている。

3)調査時期は、各年5月1日現在である。

6)1991年度調査では、「ポリカーボネート」を区分していない。

3)調査時期は、各年5月1日現在である。

1991年度と比較して、使用学校数割合の減少している食器具の材質は、ポリプロピレン、メラミン、ポリカーボネート、アルマイト、ステンレス、強化耐熱ガラス、ガラスであり、これに対して、増加している食器具の材質は、陶磁器、木となっている。こうした動きは、1990年代における有害化学物質の溶出問題と関連して、学校給食の食器具への関心が高まり、子どもにとって望ましい食器具を追及してきた結果でもあると考えられる⁷⁾。

なお、食器具の材質別の特徴に関しては、「参考資料1」を参照のこと。

参考資料1 食器具の材質別の特徴一覧

材質名	主原料	使用用途	耐熱温度	備考
強化陶磁器	粘土、長石、珪石、酸化アルミニウム	食器	700℃	
PEN(ポリエチレンナフタレート)	石油(2,6ナフタレンジカルボン酸ジメチルエステル・エチレングリコール)	食器	120℃	エンジニアリングプラスチックとして開発された。
ABS(アクリルニトリル、ブタジエン、スチレン)	石油(アクリルニトリル・ブタジエン・スチレン)	食器	70~100℃	
PP(ポリプロピレン)	石油(プロピレン)	食器	100~140℃	
PC(ポリカーボネート)	石油(ビスフェノールA・ホスゲン)	食器	120~130℃	エンジニアリングプラスチックとして開発された。
PET(ポリエチレンテレフタレート)	石油(テレフタル酸ジメチル・エチレングリコール)	食器	85℃	スーパーエンジニアリングプラスチックとして開発された。
PES(ポリエーテルサルフォン)	石油(ジクロロジフェニルスルホン・ビスフェニールS・炭酸カリウム)	汁用碗、カップ(中学校)		スーパーエンジニアリングプラスチックとして開発された。
ステンレス	鉄、クロム、ニッケル	食器、スプーン	950℃	
アルマイト	アルミニウム	食器		
シリコンゴム	石油(ジクロロジメチルシラン)	スープカップの蓋	200℃	スーパーエンジニアリングプラスチックとして開発された。
強化ナイロン(ポリアミド)	石油(ヘキサメチレンジアミン・テレフタル酸)	箸	80~140℃	エンジニアリングプラスチックとして開発された。
繊維強化プラスチック	石油、ガラス繊維、炭素繊維	トレイ		
鉄木	密度の高い天然木	箸		

資料：『プラスチック素材辞典』、「ウィキペディア」、「三信化工資料」。

7) 「学校給食ニュース3号」(1998年6月)を参照のこと。

第2章 大阪府内学校給食における食器具の現状と問題点

—「2018年度 大阪府内学校給食食器具調査」を中心として—

「学校給食・食文化研究会」では今回、大阪府内各市町村教育委員会学校給食担当課に「大阪府内学校給食における食器具に関する調査」を郵送にて依頼し、回答を得た。

調査項目は、「保有食器具の種類と材質」、「材質選択の理由」、「食器具の変更予定」、「常時使用の食器具数」である。

43市町村のうち40市町村から回答を得ることができた。調査結果は、以下に記述するとおりである。

1 保有食器具の種類と材質（参考資料2-1-1、2-1-2、2-1-3参照）

（1）保有食器具の種類（表2-1-1参照）

小学校においては、汁椀保有数が36市町村（90.0%）と一番多い。その他に記載の高槻市（大椀）、島本町（大椀）、田尻町（ボール）も含めるとほぼ全市町村となる。次いでごはん茶碗33市町村（82.5%）と続く。

皿については、パン皿24市町村（60.0%）もしくは深皿18市町村（45.0%）を保有し、パン皿で仕切り有りが4市町村（10.0%）、深皿で仕切り有りが1市町村（2.5%）となっているが、大阪市（三切り皿）、柏原市（角仕切り皿）、羽曳野市（角仕切り皿）、藤井寺市（角仕切り皿）、泉佐野市（ランチプレート）を合わせると、仕切り皿を保有している市町村が10市町村となり、大半が給食センター方式である。続いて、小椀15市町村（37.5%）、小皿14市町村（35.0%）となる。丼は2市町村（5.0%）のみである。

中学校（自校・親子・センター）においては、センター方式で選択制の弁当箱方式を実施している枚方市、河内長野市を除くとすべての市町村（19市町村）で汁椀を保有している。ごはん茶碗は大阪市を除く18市町村が保有している。皿については、パン皿10市町村もしくは深皿12市町村が保有し、パン皿で仕切り有りが2市町村、深皿で仕切り有りが1市町村となっているが、大阪市（三切り皿）、柏原市（角仕切り皿）、藤井寺市（角仕切り皿）を合わせると、仕切り皿を保有している市町村が6市町村となる。続いて、小皿10市町村、小椀5市町村となる。丼は2市町村のみである。

中学校（デリバリー）では、守口市を除く15市町村が弁当箱方式で実施している。そのうち7市町村が汁椀を保有し、2市町村がカップを保有し、八尾市でも汁物用食器が使用されており、汁物やカレーなどが提供されているようである。

（2）保有食器具数（表2-1-2参照）

小学校においては、保有数3種類が18市町村（45.0%）、4種類が14市町村（35.0%）、5種類が4市町村（10.0%）、6種類が3市町村（7.5%）となっている。2種類と回答のあった河内長野市では、それにプラスで仕切りのトレイが使用されているようである。

中学校（自校・親子・センター）においては、センター方式で選択制の弁当箱方式を実施している枚方市、河内長野市を除くと4種類が8市町村、3種類が6市町村、5種類が4市町村、6種類が2市町村と、小学校より全体的に食器数が増える傾向にある。

中学校（デリバリー）においては、弁当箱1種類のみが7市町村、弁当箱と汁椀もしくはカップの2種類が6市町村、3種類が2市町村となり、守口市は別添の「写真2-1 各市町村の食器写真」からみると、それぞれ配食しているため、6種類の食器を保有している。

（3）保有食器具の材質（表2-1-3参照）

小学校においては、食器の材質はポリエチレンナフタレート（略：PEN）が11市町村（27.5%）と多く、他にも堺市、豊中市、寝屋川市、枚方市、八尾市、羽曳野市、泉南市のように他の材質の食器と併用しているところもある。全体的に中・南河内地区で多く使用されている。

次に陶磁器が9市町村（22.5%）で豊能・三島地区での使用が多い。池田市・千早赤坂村では給食センターであるが陶磁器が使用されている。寝屋川市、八尾市、島本町でも一部の食器で使用されている。

その次に多いのがアクリロニトリル・ブタジェン・スチレン（略：ABS）で7市町村（17.5%）となっており、枚方市でも一部の食器で使用されている。

中学校（自校・親子・センター）においては、PENが8市町村で使用され、続いてABSが5市町村となっている。陶磁器の使用は、小学校に比べて少なくなっている。

中学校（デリバリー）においては、ポリプロピレン（略：PP）が多く、7市町村で使用されている。大阪市、泉南市、阪南市、八尾市、貝塚市、大東市でも使用されている。

2 食器具の材質選択の理由（参考資料2-2参照）

食器具の材質選択の理由として一番多かったのは、耐久性で27市町村（62.8%）となっている。次に安全面25市町村（58.1%）、取り扱いの利便性20市町村（46.5%）となっている。

安全面の中には破損（割れ）で児童のケガのことや破損による異物混入等に繋がることを考慮している市町村もあると考えられる。また、「食事環境の充実及び環境ホルモン等を考慮して」と、理由に挙げている市もある。このように材質から溶出される物質まで考慮し、

表2-1-1 保有食器具の種類

校種	汁椀		ごはん茶碗		小椀		井		ハン皿		深皿		その他							
	市町村 村数 (%)	割合 (%)	仕切り		仕切り															
									有り	無し	有り	無し								
小学校	36	90.0%	33	82.5%	15	37.5%	2	5.0%	4	10.0%	20	50.0%	0	0.0%	28	70.0%	0	0.0%	12	30.0%
中学校 (自校・親子・センター)	19	86.4%	18	81.8%	5	22.7%	3	13.6%	2	9.1%	8	36.4%	1	4.5%	11	50.0%	10	45.5%	15	68.2%
中学校 (デリアリー)	7	43.8%	1	6.3%	1	6.3%	2	12.5%	1	6.3%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	2	12.5%	1	6.3%

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内小学校給食食器具調査」2018年。

表2-1-2 保有食器具数

校種	1種類		2種類		3種類		4種類		5種類		6種類	
	市町村 村数 (%)	割合 (%)										
小学校	0	0.0%	1	2.5%	18	45.0%	14	35.0%	4	10.0%	3	7.5%
中学校 (自校・親子・センター)	1	4.5%	1	4.5%	6	27.3%	8	36.4%	4	18.2%	2	9.1%
中学校 (デリアリー)	7	43.8%	6	37.5%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内小学校給食食器具調査」2018年。

注：1) 食器具数に関しては、箸・スプーン・トレイを除く。

表2-1-3 保有食器具の材質

材質	小学校		中学校	
	割合 (%)	市町村 村数 (%)	割合 (%)	市町村 村数 (%)
陶磁器	22.5%	箕面市、吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、守口市、豊能町、千早赤阪村	27.5%	箕面市、富田林市、島本町、千早赤阪村
ポリエチレン/タフタレート (略：PEN)	27.5%	東大阪市、柏原市、富田林市、藤井寺市、泉大津市、高石市、泉佐野市、太子町、河南町、熊取町、田尻町	17.5%	高槻市、柏原市、藤井寺市、高石市、泉佐野市、太子町、河南町、熊取町 (デリアリー方式=守口市)
アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン (略：ABS)	5.0%	大東市、門真市、四條畷市、交野市、岸和田市、貝塚市、岬町	5.0%	門真市、四條畷市、交野市、岸和田市、岬町 (デリアリー方式=池田市、寝屋川市)
ポリプロピレン (略：PP)	2.5%	和泉市、忠岡町	2.5%	枚方市、河内長野市、和泉市 (デリアリー方式=豊中市、吹田市、茨木市、摂津市、羽曳野市、堺市、豊能町)
ポリカーボネート (略：PC)	2.5%	大阪市	2.5%	大阪市
ポリエチレンテフタレート (略：PET)	2.5%	阪南市	2.5%	阪南市
ステンレス	2.5%	河内長野市	2.5%	河内長野市
PEN/ステンレス	2.5%	堺市	2.5%	堺市
PEN/アルマイト	2.5%	豊中市	2.5%	豊中市
陶磁器/PEN/アルマイト	2.5%	寝屋川市	2.5%	寝屋川市
ABS/PEN	2.5%	枚方市	2.5%	枚方市
陶磁器/PEN	2.5%	八尾市	2.5%	八尾市
アルマイト/陶磁器	2.5%	島本町	2.5%	島本町
PP/PEN	5.0%	羽曳野市、泉南市	5.0%	忠岡町 (デリアリー方式=大阪府、泉南市、阪南市)
PP/ポリエーテルサルフォン (略：PES)	0.0%		0.0%	(デリアリー方式=八尾市、貝塚市)
PEN/PP/PES	0.0%		0.0%	(デリアリー方式=大東市)

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内小学校給食食器具調査」2018年。

注：1) 小学校の食器具に関しては、碗・皿の使用材質中心に記入。

2) 中学校のデリアリー方式は、主に弁当箱の材質で仕訳。

表2-2 食器具の材質選択の理由

理由	価格	安全面	耐久性	取り扱いの 利便性	教育的意義	その他
市町村数	10	25	27	20	11	1
割合	23.3%	58.1%	62.8%	46.5%	25.6%	2.3%

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内学校給食食器具調査」2018年。

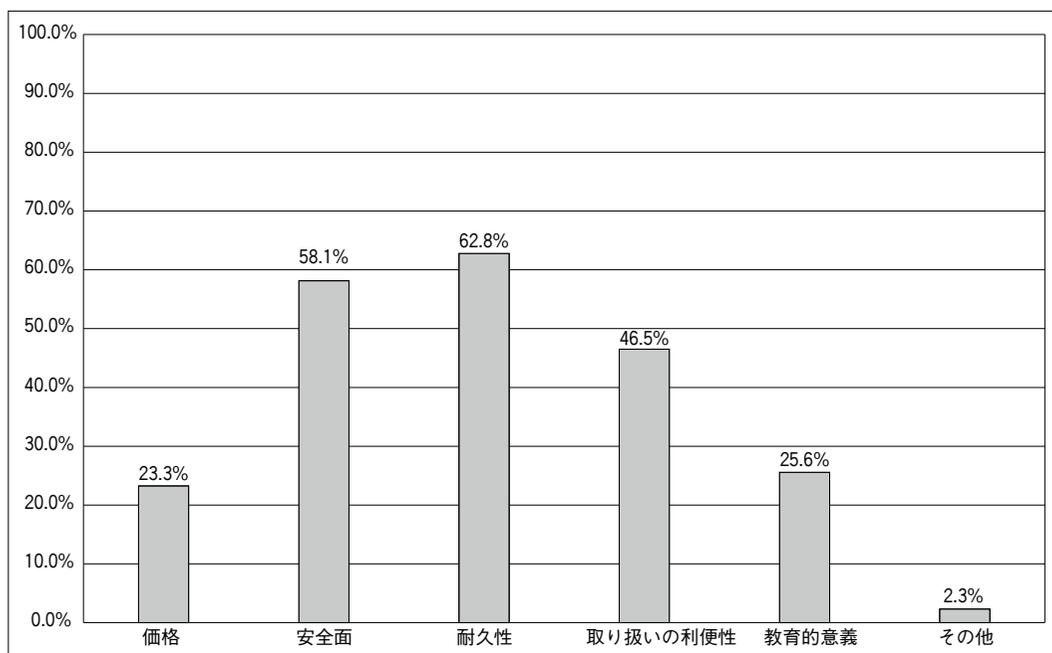


図2-2 食器具の材質選択の理由

総合的に安全面を選定の理由にしている市町村もある。

陶磁器食器を選んでいる市町村はほとんどのところで、教育的意義を選択した理由にあげている。陶磁器は扱い次第で割れるということを見童・生徒が学び、学校給食は生きた教材という面でも、食文化の面でも重要であると考えられる。しかし、PEN 食器を使用している市町村でも「教育的意義」と回答しているところもある。

3 食器具の変更予定（参考資料2-3参照）

食器具の変更予定のある市町村は6市町村で、検討中が1市町村となっている。池田市では新センター設立時に強化磁器食器からの変更が予定されている。八尾市の1学年を強化磁器食器からPEN食器に変更される予定があり、陶磁器食器が減少する可能性がある。その他、枚方市、寝屋川市、堺市、阪南市でも変更が予定されている。

4 常時使用の食器具数（参考資料2-4参照）

表2-4 常時使用の食器具数

種類	2	2～3	3	3～4	4	4～5	5	5～6	6
市町村数	2	4	24	2	3	1	1	1	1
割合	5.0%	10.0%	60.0%	5.0%	7.5%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内学校給食食器具調査」2018年。

注：小学校の使用数集計。

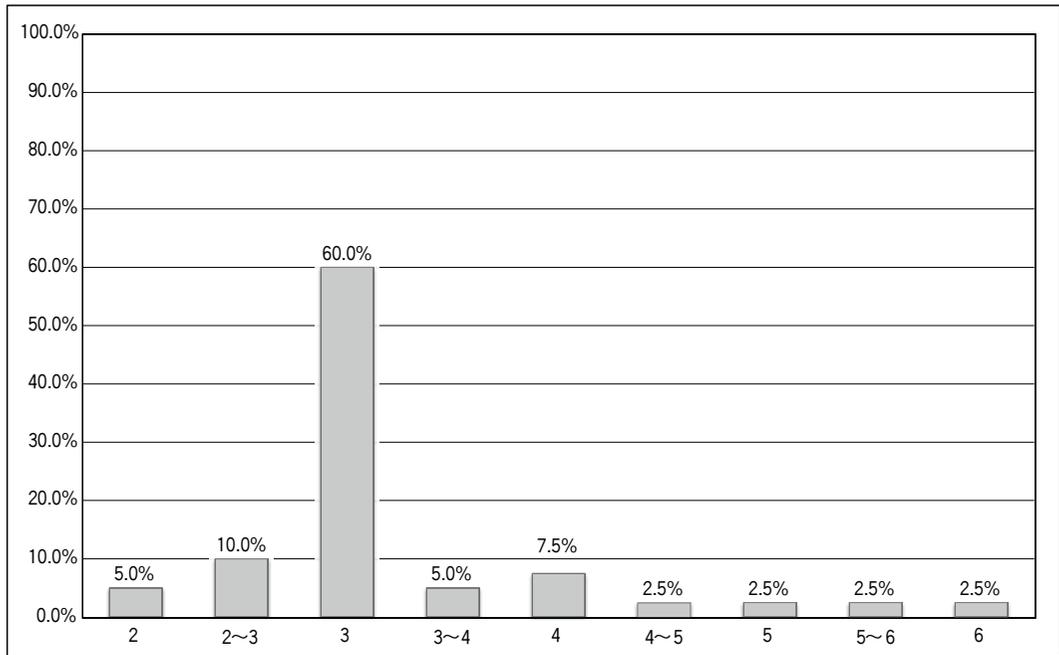


図2-4 常時使用の食器具数

常時使用する食器の数は3種類が24市町村（60.0%）となっており、献立等により2～3種類になる市町村が4市町村（10.0%）と次いでいる。5種類以上と回答している市町村もあるが、トレイやスプーン・はしも含めた数となっていると思われる。

別添の「写真2-1 各市町村の食器写真」からみても、米飯時はごはん茶碗と汁椀ともう一つ（深皿・小椀・小皿等）で、パンの時はパン皿（もしくは深皿）と汁椀ともう一つ（深皿・小椀・小皿等）という組み合わせが多いと考えられる。

5 保有食器具の種類と材質からみる問題点

食器具の種類、保有数、常時使用の食器具数からみると、各市町村が献立に応じたもの、保管や教室までの運搬等を考慮して選択されているものと考えられる。

日本の食文化の特徴は、箸を使う、ごはん茶碗を手に持って食べる、汁物は器を手に持ってお椀に口をつけて汁を飲むということが出来る食形態（配食・配膳）であると考えられる。

本研究会で、種類では仕切り皿について話題となり、とくに大阪市では三切パレット皿が使用され、ごはんもそこに盛り付けられているため、「盛り付ける量は十分なのか」、「味が混ざることはないのか」、また、「それぞれの食器を手に持って食べるという食文化の点では少し考える必要があるのではないかと」、という意見が出された。

材質では、大阪市では以前、環境ホルモンの面から問題になったポリカーボネート食器が使用されているが、安全面はどのように確認されているのか調査する必要がある。また、寝屋川市や島本町、河内長野市のようにアルミ食器やステンレス食器などの金属製食器も使用されている。学校給食の教育的意義や献立にあった食器具の使用という面では少し問題を感じるところである。

以前アルマイト食器から陶磁器食器への切り替えの時代があり、陶磁器へ切り替えが大阪府北部地域の市町村を中心に行われ、その状況は続いているが、PENやABSなどの樹脂食器の普及により、堺市や交野市等のように現在は樹脂製食器に切り替えられた市町村や、寝屋川市や八尾市のように徐々に切り替えが行われている市町村も出てきている。

陶磁器は重く、割れやすいというデメリットがあるが、今後、そのデメリットの改良が進み、教育的意義、食文化、安全性、環境の面からも使用する市町村が増えるよう期待したい。

参考資料2-1-2 保有する食器具の種類（中学校 自校・親子・センター）

番号	市町村	汁椀	ごはん茶碗	小椀	丼	ハン皿		蒸皿		小皿	デザート皿	箸	スプーン	トレイ	弁当箱	その他	備考
						在り/なし	在り/なし	在り/なし	在り/なし								
1	山町村	ポリカーボネイト															
2	大阪市	ポリカーボネイト		ポリカーボネイト												ポリカーボネイト	
3	豊中市																
4	池田市	強化磁器								強化磁器							
5	箕面市	強化磁器															
6	吹田市																
7	高槻市			PEN													自校・親子方式
8	茨木市																
9	摂津市																
10	守口市																
11	枚方市																
12	寝屋川市																
13	大阪市																
14	門真市	耐熱ABS樹脂		耐熱ABS樹脂						耐熱ABS樹脂							自校方式
15	四条畷市	ABS樹脂		ABS樹脂						ABS樹脂							
16	交野市	ABS		ABS													
17	東大阪市																
18	八尾市																
19	八尾市	PEN樹脂		PEN樹脂													
20	相模原市	強化磁器		強化磁器						強化磁器							
21	河内長野市																
22	河内長野市																
23	河内長野市	PEN樹脂		PEN樹脂													
24	河内長野市																
25	堺市																
26	堺市																
27	堺市	ポリプロピレン		ポリプロピレン						ポリプロピレン							
28	高石市	PEN樹脂		PEN樹脂													
29	岸和田市	ABS樹脂		ABS樹脂						ABS樹脂							
30	貝塚市																
31	泉佐野市	PEN		PEN						PEN							
32	泉南市																
33	阪南市																
34	能勢町																
35	能勢町																
36	島本町	強化磁器		強化磁器						強化磁器							
37	太子町	PEN樹脂		PEN樹脂													
38	河内町	PEN樹脂		PEN樹脂													
39	千早赤阪村	強化磁器		強化磁器						PEN樹脂							
40	忠通町	E-エポキシ樹脂		ポリプロピレン													
41	黒川町	PEN樹脂		PEN樹脂													
42	田尻町																
43	柳町	耐熱ABS樹脂		耐熱ABS樹脂						耐熱ABS樹脂							

参考資料2-1-3 保有する食器具の種類（中学校 デリバリー）

番号	市町村	計機	ごはん系統	小瓶	井	バケ		深皿		小皿	チヤート皿	箸	スプーン	トレイ	弁当箱	その他	備考
						有印 有印なし	有印 有印なし	有印 有印なし	有印 有印なし								
1	大塚市	○ PEN							PEN								
2	豊中市																
3	池田市	○ 耐熱性ABS 樹脂										○ 強化ガラス 樹脂	○ 18-8ステンレス				箸・スプーンは不備用
4	箕面市																
5	吹田市																
6	高槻市																
7	茨木市																
8	摂津市																
9	守口市	○ PEN	○ PEN	○ PEN	○ PEN							○ SPS	○ ステンレス	○ FRP			
10	秋田市																
11	寝屋川市	○ ABS															
12	大東市	○ PEN樹脂															
13	門真市																
14	四条畷市																
15	交野市																
16	東大阪市																
17	八尾市																
18	松原市																
19	船場市																
20	富田林市																
21	河内長野市																
22	羽曳野市	○ 40アロレン															
23	藤井寺市																
24	大塚狭山市																
25	堺市																
26	東大津市																
27	和泉市																
28	高石市																
29	岸和田市																
30	貝塚市																
31	泉佐野市																
32	泉南市	○ 耐熱 40アロレン			○ PEN製												
33	阪南市																
34	能勢町																
35	豊能町																
36	島本町																
37	太子町																
38	河南町																
39	千早赤阪村																
40	忠岡町																
41	熊取町																
42	田尻町																
43	岸町																

参考資料2-2 現在使用食器具の材質選択理由

		価格	安全面	耐久性	取り扱いの 利便性	教育的意義	その他
1	大阪市	○	○	○			
2	豊中市		○		○		
3	池田市					○	
4	箕面市			○		○	
5	吹田市	○ 中学校		○ 中学校		○ 小学校	
6	高槻市			○	○	○	
7	茨木市	食事環境の充実及び環境ホルモン等を考慮					
8	摂津市					○ 小学校	
9	守口市			○		○	
10	枚方市		○	○	○		
11	寝屋川市						
12	大東市	○	○	○			
13	門真市	○	○	○	○		
14	四条畷市		○	○	○		
15	交野市			○	○		
16	東大阪市		○	○	○		
17	八尾市		PEN (1.2年)			強化磁器	
18	松原市						
19	柏原市		○				
20	富田林市			○	○	○	
21	河内長野市		○	○			
22	羽曳野市	○			○		
23	藤井寺市		○				
24	大阪狭山市						
25	堺市		○	○	○	○	
26	泉大津市		○	○	○		
27	和泉市		○	○	○		
28	高石市	○	○	○			
29	岸和田市		○	○	○		
30	貝塚市		○	○	○		
31	泉佐野市			○	○		
32	泉南市	○	○	○			
33	阪南市	○					
34	能勢町						
35	豊能町	○ 中学校	○ 中学校		○ 中学校	○ 小学校	
36	島本町		○	○			
37	太子町		○	○	○		
38	河南町		○	○	○		
39	千早赤阪村					○	
40	忠岡町	○		○			
41	熊取町		○				
42	田尻町		○	○	○		
43	岬町		○	○	○		
計		10	25	27	20	11	1
割合		23.3%	58.1%	62.8%	46.5%	25.6%	2.3%

参考資料2-3 食器具の変更予定

	ある	具体的に	ない
1	大阪市		○
2	豊中市		○
3	池田市	○ 平成32年度 新センター設立	
4	箕面市		○
5	吹田市		○
6	高槻市		○
7	茨木市		○
8	摂津市		○
9	守口市		○
10	枚方市	○ H28年度から新センター稼働時に従来のABS食器からPEN食器の導入に移行してきた。調理場の改修のタイミングを見ながら順次変更予定	
11	寝屋川市	○ 時期未定 検討委員会を受けて	
12	大東市		○
13	門真市		○
14	四條畷市		○
15	交野市		○
16	東大阪市		○
17	八尾市	○ 2年後には3年生までPEN食器に変わる・安全面で	
18	松原市		
19	柏原市		○
20	富田林市		○
21	河内長野市		○
22	羽曳野市		○
23	藤井寺市		○
24	大阪狭山市		
25	堺市	中椀・深いパン皿の導入を検討中。時期は未定。 現在パン皿に入れている米飯をお椀に入れるようにするため。	
26	泉大津市		○
27	和泉市		○
28	高石市		○
29	岸和田市		○
30	貝塚市		○
31	泉佐野市		○
32	泉南市		○
33	阪南市	○ 現在使用中の食器の耐久性に問題があるから	
34	能勢町		
35	豊能町	直近では変更予定がないが、検討は行っている	○
36	島本町		○
37	太子町		○
38	河南町		○
39	千早赤阪村		○
40	忠岡町		○
41	熊取町		○
42	田尻町		○
43	岬町		○

参考資料2-4 常時使用の食器具数

		種類	備考
1	大阪市	4	
2	豊中市	3	
3	池田市	小学校2 中学校2	小学校ごはん献立時3種類
4	箕面市	小学校3 中学校4	箸、スプーン、トレイを除く
5	吹田市	小学校3 中学校2	
6	高槻市	2～3	
7	茨木市	3	
8	摂津市	3	
9	守口市	小学校3 中学校3	
10	枚方市	3	
11	寝屋川市	小学校3	
12	大東市	小学校3 中学校1～3	
13	門真市	3～4	
14	四条畷市	3	
15	交野市	3	
16	東大阪市	3	
17	八尾市	2～3	
18	松原市		
19	柏原市	3	
20	富田林市	小学校4 中学校3	
21	河内長野市	小学校3 中学校2	
22	羽曳野市	小学校3 中学校2	
23	藤井寺市	3	
24	大阪狭山市		
25	堺市	5～6	
26	泉大津市	2～3	
27	和泉市	4	
28	高石市	3	
29	岸和田市	3	
30	貝塚市	3	
31	泉佐野市	小学校3 中学校4	
32	泉南市	3	
33	阪南市	4	
34	能勢町		
35	豊能町	小学校3 中学校3	
36	島本町	6	箸、スプーン、トレイ含む
37	太子町	2～3	
38	河南町	3	
39	千早赤阪村	3～4	
40	忠岡町	小学校3 中学校5	
41	熊取町	4～5	
42	田尻町	5	
43	岬町	2	

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 1

大阪市

小・中学校（1）（ポリカーボネート）



小・中学校（1）（ポリカーボネート）



中学校（デリバリー）(PEN・ポリプロピレン)



豊中市

小学校（1）(PEN)



とろ〜りグラタン

小学校（2）(PEN)



ハイカラうどん

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

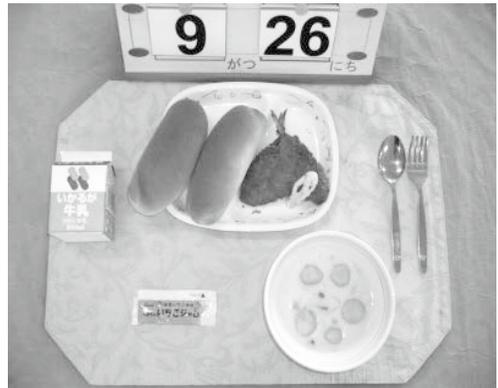
NO. 2

池田市

小学校（1）（強化磁器）



小学校（2）（強化磁器）



中学校（耐熱性ABS樹脂）



箕面市

小学校（強化磁器）



黒糖パン・たらのカレー焼き・卵スープ
野菜ソテー

中学校（強化磁器）



ごはん・たらのカレー焼き・かきたま汁
野菜ソテー・じゃこのつくだ煮

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 3

吹田市

小学校（1）（強化磁器）



小学校（2）（強化磁器）



お月見献立

中学校（1）（ポリプロピレン）



中学校（2）（ポリプロピレン）



さつまいもごはん

高槻市

小学校（1）（強化磁器）



吹き寄せごはん・三平汁・もやしのいためもの

小学校（2）（強化磁器）



減量パン・れんこんのミートスパゲティ
白いんげんのサラダ・みかん

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 4

茨木市

小学校（1）（強化磁器）



きなこパン・ウィンナーカクテル
キャベツのスープ煮

小学校（2）（強化磁器）



ごはん・大根と豚肉の煮物・のりの佃煮
チンゲンサイの煮びたし

茨木市

中学校（ポリプロピレン）



鶏肉と厚揚げの揚げ出し風・野菜炒め・春雨の酢の物
杏仁豆腐・大根のみそ汁

摂津市

小学校（1）（強化磁器）



〈七タメニュー〉 麦ご飯・ちりめん昆布・にゅうめん汁
オクラのピリッと炒め・七タゼリー

摂津市

小学校（2）（2018.7.24現在）（強化磁器）



パン皿

小学校（3）（2018.7.24現在）（強化磁器）



汁椀・ごはん茶碗 サイズ同一

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 5

摂津市（2018. 7. 24現在）

中学校（1）（耐熱性ポリプロピレン）



ランチボックス

中学校（2）（耐熱性ポリプロピレン）



守口市

中学校Aブロック（義務教育学校）(PEN)



ごはん・マーボー豆腐・根菜サラダ
焼豚スープ

中学校Bブロック (PEN)



クリームシチュー・トンカツ・ソース
キャベツのマヨサラダ・りんご・ロールパン

枚方市

小学校（全体）(ABS/PEN)



中学校（1）(P・P)



写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 6

枚方市

中学校（2）（P・P）



中学校（3）（P・P）



寝屋川市

小学校（アルミ・強化磁器）



バイキング給食

大東市

小学校（ABS樹脂）



豚キムチご飯・もずくスープ

中学校（ポリプロピレン・PEN・PES）



お月見献立 関東煮・小松菜え物・みたらし団子のり佃煮・すまし汁

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 7

門真市

小・中学校（耐熱性ABS樹脂）



揚げパン・チンゲン菜ときのこのスープ・焼きビーフン

交野市

小・中学校（ABS樹脂）



八尾市

小学校（強化磁器）



（大皿・小皿・スプーン・トレイ）

小学校（強化磁器）



（大皿・飯碗・汁椀・箸・トレイ）

中学校（ポリプロピレン・ポリエーテルサルフォン）



ごはん用・おかず用・汁物（冷菜）用
（其々に蓋あり・トレイはなし）

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 8

松原市

小学校（1）



ごはん、たまごやき、もやしのあえもの、にくじゃが

小学校（2）



コッペパン、やさいいりオムレツ、ジャーマンポテト
こめこまカロニスープ

中学校



ごはん、味噌汁、豚肉とピーマンの甘辛あん
柚子和え、刻み沢庵

藤井寺・ 柏原市

小・中学校（1）（PEN樹脂）



ごはん・みそ汁・豆腐ハンバーグ
ドレッシングサラダ

小・中学校（2）（PEN樹脂）



黒糖パン・ジュリアンスープ・ミンチカツ
フルーツミックス

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 9

富田林市

中学校（強化磁器）



ご飯 くず汁 
 豚肉のしょうが焼き 冬至献立
 塩ポン酢和え かぼちゃ蒸しパン

河内長野市

小学校（ステンレス）



中学校（弁当箱）（ポリプロピレン）



中学校（1）（ポリプロピレン）



中学校（弁当箱）（ポリプロピレン）



写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 10

羽曳野市

小学校（1）（PEN・ポリプロピレン）



小学校（2）（PEN・ポリプロピレン）



中学校（1）お弁当箱（ポリプロピレン）



左：ご飯用 右：おかず用

中学校（2）汁物用（ポリプロピレン）



中学校（3）（ポリプロピレン）



お正月メニュー

中学校（4）（ポリプロピレン）



まろやかシチュー

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 11

大阪狭山市



ごはん・あじのたつたあげ・いなかみそ汁
ひじきの梅しょうゆ



パン Pumpkinパン・かやくうどん・とりにくのからあげ
れんこんのみそあえ・ゼリー

堺市

小学校（PEN樹脂）



ごはん・四川風スープ・豚肉のプルコギ

泉大津市

(PEN)



泉佐野市

小・中学校（PEN）



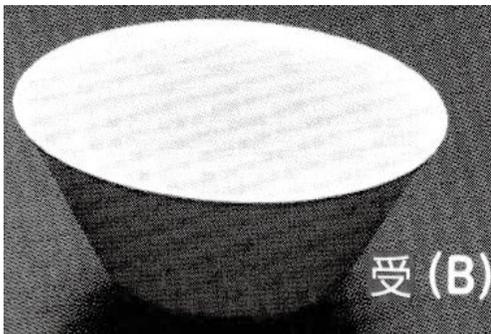
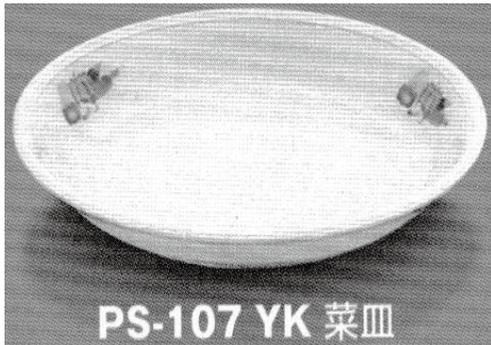
小・中学校（PEN）



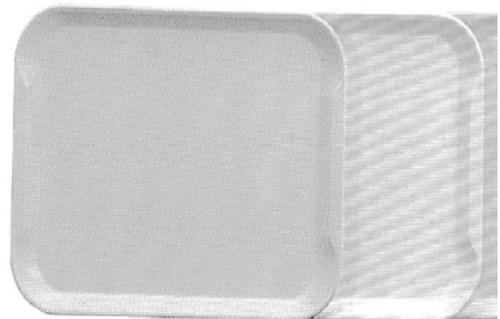
写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 12

和泉市（ポリプロピレン）



BD-6ボール 138×56 430ml



T-104 長方形 350×260×19

写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 13

岸和田

小学校（1）（ABS樹脂）



小学校（2）（ABS樹脂）



岸和田市

中学校（ABS樹脂）



貝塚

小学校（ABS樹脂）



泉南市

小学校

（ポリプロピレン・ポリエチレンナフタレート）



能勢町



写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 14

豊能町（強化磁器）

小学校（1）



小学校（2）



小学校（3）



小学校（4）



小学校（5）



小学校（6）



写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 15

豊能町

中学校（PP樹脂）



島本町（強化磁器）



河南町

小・中学校（PEN樹脂）



忠岡町

小学校（ポリプロピレン）



小学校（ポリプロピレン）



写真2-1 各市町村の食器写真（各市町村提供及び各学校等ホームページ参考）

NO. 16

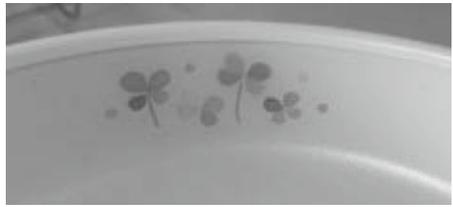
千早赤阪村（強化磁器）



写真2-2 16 東大阪市学校給食の食器

PEN食器写真

1. 皿

写真① サイズ：180 ×26 約104g	写真② 柄アップ（クローバー）
	

2. 小 碗

写真③ サイズ：127 ×53 365ml 約67g	写真④ 柄アップ（お花畑）
	

3. 大 碗

写真⑤ サイズ：139 ×57 460ml 約77g	写真⑥ 柄アップ（しゃぼん）
	

4. は し

材質 アミハード（強化ナイロン樹脂）
形状 長さ18cm 六角形


5. スプーン

材質 ステンレス


第3章 大阪府内学校給食における献立と食器具数

1 小学校における献立と食器具数（表3、図3参照）

前回の「地産地消に係る学校給食調査⁸⁾」で、どの市町村においても栄養教諭、学校栄養職員、市教委栄養士が献立作成に関わっていることが分かった。献立作成には栄養価や給食費、施設設備はもちろんであるが、出来上がったものを入れる食缶やボールなどの容器と併せて、食器の形態や数によるところも大きい。

献立数（主食＋副食の月平均）が最低3品で62.5%、3～4品で10.0%、4品で30.0%となっており、使用食器数の2種類5.0%、2～3種類10.0%、3種類60.0%、3～4種類5.0%、

表3 小学校における献立数と使用食器数

	2	2～3	3	3～4	4	4～5	5	5～6	6
献立数			62.5%	10.0%	30.0%	2.5%	2.5%		
使用食器数	5.0%	10.0%	60.0%	5.0%	7.5%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%

資料：学校給食・食文化研究会「大阪府内学校給食食器具調査」2018年。

注：1) 献立数は、主食＋副食（月平均）。

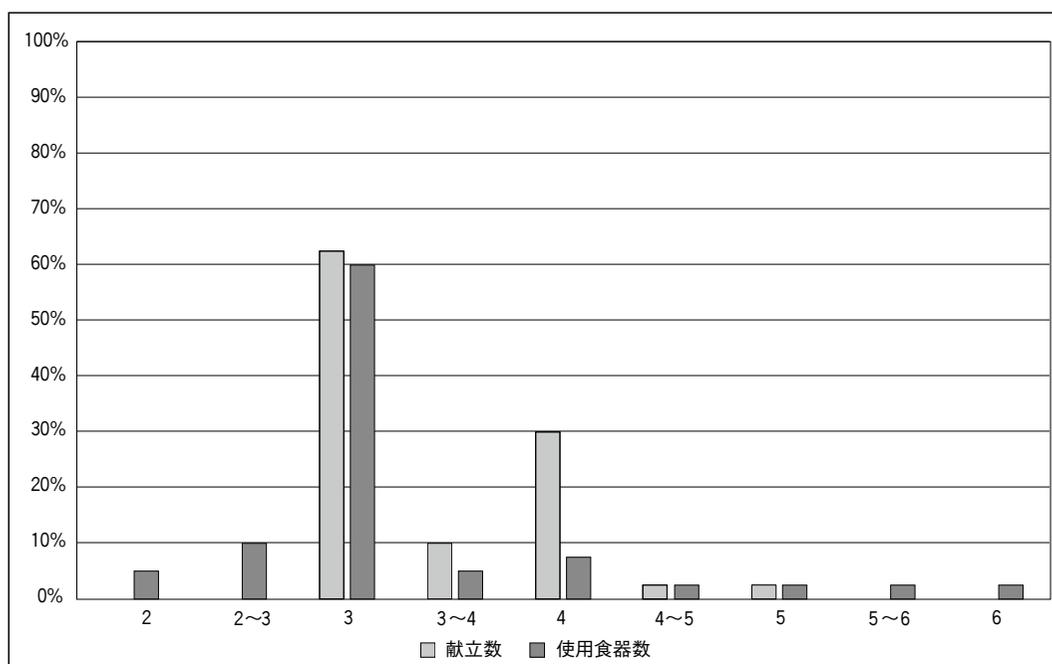


図3 献立と使用食器具数

8) 榎原正澄他「学校給食における地産地消の現状と課題」（関西大学『経済論集』第67号第4号、2018年3月号）所収。

4種類7.5%に比べ、多くなっている。

たくさんの食器の種類があれば、いろいろな食器を選択することはできるが、保管場所や教室までの運搬を考えると数が限られてくる。近年、学校給食献立を充実させるため、副食の数を3品に増やしていく傾向にあるが、使用する食器を増やすことは少ない。別添の「写真2-1 各市町村の食器写真」でもみられるように、パレット皿や仕切り皿を使用したり、一つの食器に盛り合わせたりしているのが現状である。本来、手に持って食べるという食文化の面から考えると、諸制限はあるが、それぞれの料理に合った食器を使用することが望まれる。

2 食器具の材質選択の問題点

既述のとおり、食器具の材質選択の理由としては、耐久性、安全面、取り扱いの利便性が上位を占めている。このこと自体は大切なことではあるが、それと同時に、学校給食を喫食する児童・生徒にとって、安全で安心な食器具の使用となっているのかという視点を欠かすわけにはいかないであろう。

現在も解決されていない、環境ホルモン溶出問題については、成長期にある児童・生徒を対象とする学校給食においては、今後も関心を高めていく必要がある。

日本の食文化を大切にしたい学校給食の実践にとっては、陶磁器食器の使用は大事なことといえるであろう。その理由の一つとして、陶磁器食器は児童・生徒が学校給食を「生きた教材」として学ぶのに適した食器具と考えられるためである。しかしながら、陶磁器の重い、割れるという特徴については、教育的観点からも考えていくことが大事なこととなるであろう。

第4章 大阪府内学校給食における食器具をめぐる課題

「2018年度 大阪府内学校給食食器具調査」結果における問題点の検討を踏まえ、その特徴について要約しておこう。

第1に、保有食器具の種類に関しては、大阪市においては三切パレット皿を使用しており、ごはん茶碗がないのは、日本の食事形態としてあまり好ましいものとはいえないであろう。

また、中学校（デリバリー）においては、弁当箱方式が多く、児童・生徒にとって望ましい学校給食の食事形態とはいえないであろう。そのため、そうした事態の改善は進められており、汁椀やカップを保有して、汁物やカレー等が提供されている。しかしながら、本来の

学校教育の一環としての学校給食という意味では、正しい食生活を学ぶための食器具としては不十分である。

第2に、保有食器具の材質に関しては、小学校においてはポリエチレンナフタレートを使用する市町村数がかつとも多く、それに続くのが陶磁器、ABS樹脂である。こうした傾向は、2000年代後半以降に進行したと考えられる。

中学校（自校・親子・センター）においては、ポリエチレンナフタレートやABS樹脂の使用が多く、小学校に比較して陶磁器の使用は少なくなっている。また、中学校（デリバリー）においては、ポリプロピレンが多くなっている。

小学校ならびに中学校において、陶磁器食器の使用が少ないのは、日本の食文化の継承の点からは問題を含んでいるといえるであろう。

第3に、食器具の材質選択の理由に関して、耐久性、安全面、取り扱いの利便性が上位を占めているが、児童・生徒にとって、安全で安心な食器具の使用という視点も大事であろう。その意味では、給食現場の実態を踏まえながらも、教育的意義を重視して食器具の材質について考えることも必要であるといえる。

第4に、食器具の変更予定に関わって、断定はできないが、陶磁器食器の使用の減少が予想される。新センター建設等の時に、食器具の選択に関して、耐久性、安全面、取り扱いの利便性が優先されて、学校給食を喫食する児童・生徒に対する教育的意義が置き去りにされることを危惧しなければならない事態といえる。

それでは、大阪府内学校給食における食器具をめぐる課題について、整理しておきたい。

第1には、安全性の視点である。学校給食関係者、保護者、地域住民には、学校給食を喫食する児童・生徒に安全で安心な学校給食を提供するために必要な食器具を提供することが求められる。環境ホルモンの溶出が懸念される食器具については、その使用を留保することも必要であろう。アルミ食器やステンレスの金属製食器についても、その安全性について検討することは必要なことであろう。

学校給食は、成長期にある子どもの食生活を支えるものであり、その使命を実現することは、学校給食関係者だけではなく、保護者、地域住民にとっても社会的課題といえる。

第2には、食文化の視点である。日本食の食事にとっては、器（うつわ）は大切な構成要素であり、その意味からは、陶磁器食器の使用に関しては、正しい食生活の定着を促すためにも、推奨されることが求められるであろう。すでに述べたとおり、陶磁器食器使用の問題点については、学校給食関係者においては、教育的意義、食文化、環境問題等を考慮して解決を図ることが期待される。

第3には、教育的意義の視点である。児童・生徒にとって、学校給食はその教育的観点

十分に発揮されるように改善を図ることが必要である。そのために必要な食器具を、児童・生徒に提供することを模索することは大事なことであり、学校給食の形態や施設に関しては、そのことを考慮して決定すべきといえるであろう。

むすびに

「2018年度 大阪府内学校給食食器具調査」の検討を踏まえ、学校給食における食器具問題について総括しておこう。

第1には、食器具に関する全国的統計⁹⁾が2006年度を最後に実施されていない点である。食器具に係る分析をするための基礎的なデータが欠如しており、地域の食器具問題についての正確で相対的な分析を困難にしている。こうした事態は早急に改善されることが望まれる。

第2には、学校給食法、食育基本法、食育推進基本計画等において、食器具の明確な位置づけがなされていない点である。食事をとるに際して、料理の内容と同時に、どのような器（うつわ）で喫食するかは、学校給食をおいしく頂くための重要な要素である。そして、「食育基本法」に規定された、「健全な食生活」を実現するためにも、学校給食において児童・生徒に適切な食器具の使用を促すための法制の整備が求められる。

第3には、食器具と学校給食調理方式との関係性についてである。学校給食調理方式には、①単独調理場方式、②共同調理場方式、③その他があり、それぞれの特性に合わせて食器具は選択されている。ここで問題としなければならない方式は、③その他であり、とりわけ、大阪府内においては、大阪府の「中学校給食導入促進事業」によって増加した、中学校（デリバリー）である。既に指摘したとおり、弁当箱方式の食器具の材質はポリプロピレンがほとんどであり、食育の推進を図るためには、適切なものとはいえないであろう。

第4には、食器具の材質選択における教育的意義の重要性である。食器具の材質選択の大きな流れとしては、1980年代以降においては、学校給食の合理化が推進されたため、プラスチック素材の食器具の使用は普及したが、1990年代には有害化学物質の溶出問題があり、陶磁器等の増加がみられた。しかしながら、2018年度の大阪府内においてはポリエチレンナフタレートやABS樹脂の使用が多くなっており、2000年代後半以降の動向と考えられる。こうした時代の動きを考えれば、学校給食における教育的意義を高く評価して、食文化や環境

9) 文部科学省「学校給食における食堂・食器具使用状況調査」は3年毎に実施されていたが、2006年度が現時点の最後の調査となっている。

問題の視点からも、食育を推進するにふさわしい食器具の材質選択の模索が望まれる。プラスチックごみの問題が世界的に問われる状況では、食器具の材質選択に当たっては、耐久性、安全面、取り扱いの利便性に加えて、教育的意義、食文化の継承、地球環境問題の考慮は必要事項であるといわなければならないであろう。

